

開館日カレンダー 2022年4月～9月までの予定

4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7	5	6	7	8	9	10	11
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	12	13	14	15	16	17	18
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	19	20	21	22	23	24	25
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	26	27	28	29	30		
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31											

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6					1	2	3
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
31																				

● 特集展示「郷土玩具～おまもり・えんぎもの～」 ● 特別展「人形作り いろはの“い”(仮)」 ● 展示室1・2(常設展)のみ閉室
 ● 常設展示解説 午後1時30分～ ※申込不要、要観覧券 ● ワークショップ開催日
 ◆ 5月1日「さいたま市民の日」は、観覧料無料 ※5月10～15日はくん蒸等により臨時休館

これからの展覧会

特集展示「郷土玩具～おまもり・えんぎもの～」

2022年4月29日(金・祝)～8月21日(日)
 所蔵品から、疫病退散の祈りが込められた赤物玩具や、神社仏閣から授与された蘇民将来符や鶴島などの、かわいいお守りや縁起物をご紹介します。



黒島 大正～昭和時代

特別展「人形作り いろはの“い” ～後世に伝えたい桐壱の技～(仮)」

2022年9月23日(金・祝)～12月4日(日)
 人形作りをテーマとする展覧会の第1弾として、人形作りの歴史や、伝統的な製作技法である桐壱の技を紹介します。また、道具や材料に触れるワークショップも企画中です。乞うご期待！



【にぎわい交流館いわつき】

博物館に隣接する、にぎわい交流館いわつきでは、体験講座やイベント、カフェ・ショップでの食事や買物をお楽しみいただけます。(Tel.048-757-2981 / Fax.048-793-4074)
 ※イベント等の詳細は、下記ホームページをご覧ください。
<https://www.nigiwai-koryukan.jp/>



基本情報

【開館時間】 午前9時～午後5時 ※入館は開館時刻の30分前まで
 【休館日】 月曜日(休日の場合は開館) / 年末年始(12月28日～1月4日) ※臨時に休館・開館することがあります。
 【観覧料】 一般：300円(団体：200円) / 高校生・大学生：65歳以上：150円(団体：100円) / 小学生・中学生：100円(団体：50円)
 ※障害者手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は半額になります。※団体は20名以上。
 ※展覧会により観覧料が異なる場合があります。
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入館を制限したり、展示・イベント等を予告なく中止・変更する場合があります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。
 ※掲載資料のうち、特に表記のないものはさいたま市岩槻人形博物館蔵です。

Instagramで情報発信しています!
https://www.instagram.com/iwatsuki_ningyo_museum/?utm_source=qr



● 交通案内
 【電車をご利用の場合】 東武アーバンパークライン(野田線)「岩槻駅」から徒歩約10分
 ※大宮駅から岩槻駅までの所要時間は約12分です。
 【車をご利用の場合】 東北自動車道「岩槻IC」出口から約5.5km、車で約12分
 ※駐車場は、普通自動車用28台、車いす用2台、乗降スペースは、大型バス用2台分があります。なお、にぎわい交流館いわつきの共用です。



IWATSUKI NINGYO MUSEUM NEWS

いづれも
 そばで、
 味もつてる。



鴻巣の赤物 鯛車・狛・馬乗金太 明治～昭和時代

特集 特集展示「郷土玩具～おまもり・えんぎもの～」

Contents
 特集展示「郷土玩具～おまもり・えんぎもの～」 / 常設展 Close-up / イベント
 Information / 学芸員の研究ノート 第3回「岡本玉水 作品を未来へ」
 開館日カレンダー / これからの展覧会



※このリーフレットは20,000部制作し、1部あたりの印刷費は約17円です。

特集展示

「郷土玩具～おまもり・えんぎもの～」

2022年4月29日(金・祝)―8月21日(日)／展示室3

所蔵品をシリーズで紹介する特集展示。令和4年度の特集展示では、縁起物やお守りなどの信仰的な側面を持つ郷土玩具を展示いたします。御朱印やアマビエブームなど、混迷の時代を生きてきた私たちは、少し神秘的でありつつも愛らしいアイテムやアイコンに癒しを求めているのかもしれない。人々の健やかな日々への祈りが込められた郷土玩具をどうぞご覧ください。トピックとして、さいたま市桜区で昭和時代中期まで作られてきた五関張子も紹介します。



厄除けの郷土玩具

見どころ紹介
ぜひ を見てください!

あかいろのおもちゃ

郷土玩具に最も多用される色は「赤」。だるまや獅子舞の獅子頭なども定番は赤色です。鮮やかな赤は、血液や太陽、炎の色を連想させるためか、古くから魔除けの色とされていたようです。さらに、江戸時代には痘瘡(天然痘)除けの色とされたため、子供が遊ぶ玩具には好んで用いられてきました。



鴻巣の赤物 神・天神 明治～昭和時代
鴻巣(埼玉県鴻巣市)で作られてきた赤物玩具は、木屑を使った練物製で、全体が赤く塗られています。

くろ～いこれは何?

答えは、蘇民将来のお守り。長年神棚に置かれていたものか、煤で燻されて変色しています。蘇民将来は、日本神話の荒ぶる神・素戔嗚尊を欲待し、子孫が疫病から守られることを約束された蘇民将来という人物の伝説にちなんだもの。各地の寺社仏閣から疫病除けや厄除けのお守りとして出されました。



信濃国分寺(長野県上田市)の蘇民将来符 江戸～明治時代
ドロノキ(泥の木)を使って作られる六角柱の護符で、国分寺八日堂において1月7日・8日に頒布されたもの。

さいたま市の五関張子

さいたま市桜区で作られていた五関張子。五関村の名主を務めていた蓮見家が4代にわたって製作した張子玩具です。明治時代の初めから昭和50年代まで作られました。首振りて小型の人形が多いなか、大正～昭和時代の作とみられる本作は、高さ約45cmもあるビッグサイズの恵比寿&大黒さまです。



五関張子 恵比寿・大黒 大正～昭和時代

常設展

Close-up

展示室2「コレクション展示 日本人形」も定期的に展示替えを行っています。新緑まぶしい5月5日は端午の節句。勇ましい武者の人形も展示いたしますので、ぜひご覧ください。

しょうき 鍾馗
明治～大正時代
展示室2

2022年4月5日(火)～5月8日(日)

鍾馗は中国生まれの民間信仰の神様。日本では疫病退散や魔除けの力を持つとされ、端午の節句飾りの定番にもなりました。豊かな鬚を蓄え、剣を構えた剛健な姿は、特に関東地方で好まれました。



元禄 久保哲 久保佐四郎作
昭和時代初期
展示室2

2022年7月5日(火)～12月中旬(予定)

創作人形作家の先駆けである久保佐四郎の作品。歌舞伎十八番の「暫」がモチーフで、袖には市川團十郎・成田屋の定紋である三升が描かれています。荒事の武者姿ですが、どこか愛嬌も感じられます。



イベント

Information

つくろ、御殿玩具～ふくら雀の絵付け体験～

当館の所蔵品に関わるものを作る「つくろシリーズ」のワークショップ。御殿玩具は縁起が良いものをモチーフにした手遊びの玩具で、今回は福良雀の型に絵付けをします。仕上げに小さな鈴を入れたら、完成!!



御殿玩具 江戸時代

日時: 2022年5月8日(日) 午後2時～4時 会場: 当館会議室
定員: 16名 対象: 小学3年生以上 参加費: 600円(鈴代含む)
応募締切: 4月12日(火)

【申込方法】

イベントは事前申込が必要です。往復はがきに、①参加希望イベント名、②参加者氏名(ふりがな)、③郵便番号・住所、④電話番号を明記の上、当館までお送りください。※小・中学生の場合は⑤学年、⑥保護者氏名(ふりがな)もご記入ください。※往復はがき1枚につき、2名1イベントずつ応募可能です。※締切日の消印有効。※応募者多数の場合は抽選。複数応募は無効。

《申込先》

〒339-0057
埼玉県さいたま市岩槻区本町 6-1-1
さいたま市岩槻人形博物館 宛

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予告なく中止・変更する場合があります。ご了承ください。

予告 にんラボ特別編

見て、触って、聞いて・・・時にはニオイをかいだり味わったり!? 五感を使って人形作りや人形に関する文化を学ぶ体験・実験型ワークショップ、にんラボ。本年度は、秋の特別展期間に特別展スベシャルバージョンを開催予定です。次回のニュースレターに詳細を掲載。どうぞお楽しみに!

第3回 学芸員の研究ノート

岡本玉水 作品を未来へ

昨年当館では特別展「こどものかたち―創作人形の力展～平田郷陽・野口光彦を中心に～」を開催し、6名の人形作家の作品を紹介しました。そのご縁で、展覧会終了後、紹介した作家の一人・岡本玉水のご遺族より、玉水作品22件のご寄贈を受けました。

岡本玉水(1898-1972)は、東京市下谷区(現東京都台東区)生まれ。本名久雄。代々人形師の家系に生まれ、御所人形の大家として知られています。昭和3年(1928)には、平田郷陽(後の人間国宝)と共に人形研究団体・白澤会を創立。人形芸術運動に邁進しました。第二次世界大戦後も日展に出品し、昭和29年(1954)第10回日展で北斗賞を受賞、翌年には審査員を務めるなど、実績を重ねますが、残念ながらそれらの作品が、人々の目に触れる機会には多くはありませんでした。

今回ご寄贈いただいた作品の中には、玉水の代表作が含まれます。昭和25年(1950)第6回日展出品作の「かぐや姫」、玉水では最も大きい作と考えられる「紅絵売り」。さらに昭和30年

(1955)第11回日展に審査員として出品した「宮詣」は、高さは50cmと大きく、全体が淡い色調で品良くまとめられた優品です。ほとんど目にするこなかった、これらの玉水作品の仕事の素晴らしさに、我々一同目を奪われました。

ご遺族が大切に伝えられてきた人形を、当館へご寄贈いただいたことへの感謝とともに、作品を守り、公開し、未来へつなげていくという、博物館としての使命を新たにしました。これらの作品は今後も順次公開していく予定です。

(学芸員 蟹沢真弓)



「宮詣」と写る岡本玉水



「宮詣」岡本玉水 昭和30年(1955)